

都留文科大学

同窓会報

第27号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局
責任者 小林孝次
山梨県都留市田原3-8-1
☎ 0554-43-4341



一人で やるしかない

都留文科大学同窓会会長

永田 清一



校長室から雪を被った霊峰富士が見える。太陽の光を浴び輝く、都留でよく見た富士を思い描く。

冬になると思い出すことがある。学生時代の私は、ラグビー部に所属していた。部と言っても最初は同好会から始まった。体育会から部への昇格承認を得ると、体育会から部費の援助があった。わずかな金額だが、ヒヤリングに行った私の話を聞いてみんなが喜んだのを懐かしく思い出す。最初集まったメンバーは県内者が多かった。たまたま母校の高校は、県下でもラグビーの名門校として名をはせ、花園ラグビー場への常連校でもあった。従って、冬の運動はラグビーを中心に体育がなされていた。ラグビー部員に限らず、誰もが否応なくラグビー好きの校風があった。その卒業生の1年先輩と私たち同年代の者が中心となり、都留文大にチームを編成した。その後は、全国各地の学生が参加し今日に至っているようだ。

さて、アメリカに端を発した金融危機の波が、全世界の実態経済を暗い闇で覆い被そうとしている。その影響は、就職が内定し「さあこれから」という学生の目の前に、思わぬ出来事に先行きの不況を想定した企業も内定取り消しの暴挙にでた。全くやり場の

ない不満が充満し社会の中の自分を見いだすことが、これまで以上に困難になりつつある。

社会に出るということは、真つ暗闇の中に放り出されるような時代なのかもしれない。

ある小説家が、新聞紙上で次のように述べている。「小説を書くのは、暗いトンネルの入り口に立つような感覚です。出口がなくて、途中で行き止まるかもしれないと、考えるととても怖いですが。でも強いタイトルがあれば何とかなる。タイトルというのは小説のコンセプトメイキングで、トーンも決定しますから。そのタイトルを懐中電灯代わりに掲げて暗いトンネルを行けば、何とか探れるのだと思います。」

書く苦しみと喜びと、両方を味わいながら懸命にやっても、自分にはどうしてもならないスランプに落ち込んだことがあると言い、体験からの話なのでなかなか説得力がある。

「なかなかつかめないままに適当なタイトルを付けたりすると、トンネルには入れるが急に行く手を見失ったりする。」

「それ以外にも、シチュエーションや癖のある人物などいろいろな道具を手にして探検にでるのです。探検ですからいつも同じトンネルというわけにもいかず、新しいものにも挑戦しなければならないし、気力だけでなく勇気も必要です。」

「でもそれは小説家だけでなく、クリエイティブな仕事全般に言えることだし・・・(中略)・・・どのみちトンネルには一人で入らなければならない」と結んでいる。

孤立を恐れない、独創性が必要なのもかもしれない。学生諸君が、もし自分の懐中電灯を持つことができれば・・・と願っている。

「思い」

都留文科大学同窓会副会長

木浦 憲一



三年前に、同窓会理事会に参加するため、久しぶりに谷村を訪れました。クラブの周年事業で訪れて以来、随分月日がたっており、街並みと大学の変容ぶりには本当に驚かされたものです。また理事会では、本当に真摯に課題に取り組んでおられ、本部と全国の支部の多くの皆様方に大きな感銘を受けました。

此のたびご縁があり、同窓会副会長の大役を仰せつかりました。何分遠方のことでもあり、十分な活動も出来かねるだけではなく、各位の方々にご迷惑をおかけすることと存じます。しかし、自分のできる範囲で、全力で頑張ってまいります。どうか宜しくお願いいたします。

私は、大阪府堺市に勤務していますが、和歌山県橋本市に住まいしています。新規開発が始まっているとはいえ、まだまだ山間の里です。

40歳代になってふと気がついたことですが、我が家の近隣に、大きな銀杏の古木が3本聳えているの

です。実は、秋の紅葉の時期まで山合に隠れており、その存在自身を殆どの人々が知らないでしょう。

しかし、秋が深まりますと、鮮やかな黄色の衣をまとった巨木が姿を現します。その存在感は周囲を押し、樹形から黄色い炎が燃えるようです。この時期になりますと、私も車を思わず止め、見入っている時があります。普段は目立たない存在で、自分を誇示することなく、青葉に埋もれ、日々の何事も無く生きている。しかし、時期が来て本当に必要とされる時には、その本分を発揮し、力いっぱい生き様を主張していく。これらの銀杏の古木を見るたびに、圧倒されている自分を感じます。

さて、近年団塊の世代の退職の時期にあたり、教育現場でも多くの新人が採用されるようになっていきます。全国的な傾向です。我が大学の卒業生も、関東周辺では十分力を発揮してくれているようです。しかし、関西方面では中々うまく言っていない現実があります。同窓生の皆様、現役の学生たちの姿を思い浮かべていただき、一人ひとりの会員の力を結集して、支援をしてやろうではありませんか。

それだけではなく、私たちのように現役を終えようとしている者や、諸先輩の皆様方には、同窓会をこれからの自分の人生を豊かにしていく大事なツールの一つとしていきませんか。このような「思い」を大切にして、頑張っている所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

「小自治体の 大学経営」

都留文科大学学長

今 谷 明



全国の同窓生の皆様には、御健勝にて益々御活躍のこととお慶び申し上げます。

学長就任以来10ヶ月になります。夢中で業務をこなして来たつもりではありますが、慣れない職務とは申せ、まだ十分に大学全体を把握しているとは言えません。学長任期初年度が、法人化1年前ということで、種々の困難もあり、学生の抱える問題もいろいろある状況です。

しかし、一部の私大で見られるような、定員割れとか、極端な受験者減少といった事態には陥っておりません。幸い昨夏のオープンキャンパスは好評で、昨年度よりも見学者が増え、この少子化の時代にありがたかったことでした。しかし、大学を取り巻く環境は大変に厳しく、都留市の財政も公債費率が高く、なかなか油断がなりません。

私も公立大学教員として18年在籍の経験がありますが、この大学へ来てありがたいと思うのは、大学の街としての伝統があり、市民の皆様も大学に理解があり、大学が地域に根付いているということでした。これが大都市の大学だとこうは行きません。

法人化の具体的手続きが動き出したところ、国際状

勢と世界経済に、にわかに暗雲がただよい始め、米国の投資銀行が全滅、日本にもその余波が及んで、株価の暴落と急激な円高が始まりました。学生諸君の採用内定取消しの情報も入ってきています。まさに内外多事多難です。

しかし、大学としては、この際慌てることなく、一歩退いて沈思し、将来の構想に頭をめぐらすべきだと思います。私は前任地において、日本学術振興会の専門調査員を兼務しておりまして、「学術動向調査」の名目で世界各地の大学の街を見学することが出来ました。英国のオックスフォード、ケンブリッジ各大学、オランダのライデン大学、スペインのアウトノマ自治大学、独のハイデルブルグ大学、米国のハーバード、カリフォルニアロサンゼルス校等を回ってきました。これら大先輩の大学と比べるのは如何にも烏滸がましい限りですが、特色ある郊外の大学の街として非常に参考になり、模範とすべきように思いました。

しかし、いきなりライデン大学等の真似をするのは無理でしょう。ただ、長期的には、特色ある研究テーマと研究者を揃え、小さくともキラリと光る大学を目指すのが、私のささやかな夢であります。それにつけても、地方の小自治体がこのような良質の大学を運営し得ていること自体、ちょっとした奇蹟であり、ひとえに強固な同窓会組織と会員の皆様の熱心な取り組みのたまものとしみじみ思います。大学としても実に感謝に堪えぬ次第で、法人化の結果、効率化がはかられ大学が一層発展するようにと、祈念してやみません。

都留文科大学同窓会役員

役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科
名誉会長	今谷 明		茨城支部長	宮内健治	52国	島根支部長	木村晴男	44初	山梨県理事	一瀬英治	47国
会 長	永田清一	47国	埼玉支部長	渡邊哲朗	40初	岡山支部長	原田直樹	45国		若林四郎	32商
副 会 長	桐井幸雄	33初	千葉支部長	林 俊之	44初	愛媛支部長	谷川忠孝	43初		朝比奈一正	40初
	木浦憲一	47初	東京支部長	松本多加志	44初	徳島支部長	小倉健司	54英		作地 眞	47国
	小林孝次	47英	神奈川支部長	板倉忠臣	31初	高知支部長	清岡典代	41国		奥脇隆樹	46初
	千野文雄	49英	山梨支部長	倉田由和	38初	長崎支部長	西田正人	41初		赤松金次郎	36商
庶務会計	石井正己	52初	静岡支部長	鶴見親義	40国	熊本支部長	倉岡康夫	39国		安富ひろ志	46英
	田中克己	53初	新潟支部長	池原栄一	51初	宮崎支部長	荒巻孝行	36初	顧 問	奥秋順作	32初
	渡辺 厚	大学課長補佐	富山支部長	澤井 隆	49国	鹿児島支部長	溝口通大	40初		志村武男	32商
事務局長	日向哲男	52初	石川支部長	西田良治	50国	沖縄支部長	金城宏安	34初		後藤 敬	34商
事務局次長	浜欠亮吉	40国	福井支部長	伊藤俊英	46国	北海道理事	当銀誠博	40初		小佐野正己	29教
監 事	淡野香百合	40初	愛知支部長	鈴木定夫	47初	兵庫県理事	赤穂栄一	41英		佐藤唯一	33初
	相川洋子	53英	三重支部長	山本征也	39初	山梨県理事	高野英夫	33初		佐藤英夫	39国
北海道支部長	横山 勲	41国	奈良支部長	瀧川佳市	33初		柏木精一	58初		興石 東	33初
岩手支部長	堀籠智志	54国	大阪支部長	泉川芳夫	50初		林 学	54初		山縣永良	40国
山形支部長	神尾正俊	55国	兵庫支部長	井上弘和	41国		原 喜雄	54初		勝俣武男	42初
宮城支部長	鎌田 清	47初	広島支部長	小谷桂司	45初		和田一次	46初			
福島支部長	大竹豊義	39初	鳥取支部長	西尾迪子	42初		市川将満	45国			

「都留文科大学に 45年」

都留文科大学退官教授
英文学科教授

林 信義



林信義先生は、平成20年6月、定年の前に本学をご退職されました。脳梗塞で、リハビリに努められていますが、言葉も手もご不自由です。僥越ながら、教え子の一人であり、また英文学科の教員として先生に導いていただいたS49年卒の西出公之が一文を寄せさせていただきます。

林先生は、昭和38年4月に都留文科大学英文学科に入学されました。昭和43年卒業後英文学科の助手として、昭和48年からは英文学科講師、昭和55年から助教授、そして昭和62年からは教授として英文学科での教育に携わってこられました。

私を含め初期の英文学科生は4年間先生のLL実習を受講しました。1年のLL実習は英語音声学と連動しているなど、段階を踏んだ授業内容でした。LL実習の他、英語音声

学、英語科教育法、アメリカ文化、言語文化講義など広範な分野の授業を担当されました。大学院では英語文化特殊研究を担当されました。先生のゼミは人気があり、毎年希望者が殺到しました。面倒見が良い先生は、ゼミ生でなくてもいろいろとご指導くださり、卒業後も何かとお世話になった者も多いようです。テニス部、アイスホッケー部、そして体育会の顧問もされました。平成15年には、山梨県アイスホッケー連盟への貢献に対し、山梨県体育協会から「体育功労者賞」が贈られています。都留市内にご在住の林先生は地域へも大きな貢献をなさっています。県内のスピーチコンテストのジャッジや、中学・高校の英語教育関係の研究会への指導・助言のほか、AETのオリエンテーション講師もされました。小学校英語教育で文部省の研究開発校に指定された三村・葦崎北東の両小学校では運営指導委員をされました。山梨県教育委員会が平成6年に設置した「新しい高校づくり研究協議会」では、職業高校分科会で座長として調整にあたられたことは新聞各紙の県内版で報道された通りです。

昨年2月7日、山一會館で「林先生の会」が催されました。川上富久氏(S46年卒)の呼びかけで、S45・46年の英文卒業生、林ゼミ・テニス部・アイスホッケー部のOB・OGを中心に大勢が集まり、林先生に感謝し、早い回復をご祈念申し上げます。

「懐かしい 昔のこと」

都留文科大学退官教授
初等教育学科教授

箱石 泰和



定年退職を間近に控えていま、想いはどうしても昔に溯ってしまう。

大学院を出たばかりの専任講師として私がこの大学に来たのは1972年のこと。大学らしい建物といえば今の講義棟(1号館)だけで、他には着工半ばの体育館と古びた木造の絵画教室や音楽校舎があるだけだった。図書館はなく、講義棟に図書室が一つあるだけ。狭い研究室は二人住まいで水道もなく、電話もベニヤ板で隔てられた隣の研究

室との共用だった。

何もかもこれが大学かと疑うほどだったけれど、そのころの都留文科大学が私には無性に懐かしい。教授会はこじんまりしていてアット・ホームな雰囲気だったし、先生方はみな学生思いで、とくに若手の先生方は教員宿舎(学生アパートの一部)に泊まり込んで熱心に学生指導にあたっていた。大きな大学にはない、教員と学生・教員相互の濃密な関係があった。創立後20年に満たない初々しさと、「40年事件」やその直後の全国的な大学紛争の余韻がキャンパスに満ちていた時代だった。

入試で地方に出張すると同窓会の方々が手伝いに来て、夜には一席を設けてくださった。「学生時代、〇〇先生の授業でグラウンドの石拾いをした」「部活で面倒をみてもらった」等々の思い出話に耳を傾けながら、この大学を創り育てて来た人々の熱い情念に思いを馳せた。しみじみと「いい大学に来た」と思った。私なりに若いときの情熱をこの大学の仕事に傾けて来られたのは、そういう基盤があったからだろう。ありがたく、幸せなことだったと思う。

31年の在職を ふりかえって

都留文科大学退官教授
社会学科教授

平野 英一



私が都留文科大学に専任教員として着任したのは1978年(昭和53年)4月でした。その前月の末をもって私の母校である東京教育大学は筑波大学創設によって廃学となったのでした。学部および大学院修士・博士課程を通して自分の学生生活や学びと研究を形成してきた場が、ストライキ・学内封鎖等の1年半もの授業停止など筑波移転反対闘争の紛争を経て、遂に消えていったことに対しては、なんともいえない寂しさをかかえていた時でした。そうした心の中にぽっかり穴の開いたような気持ちで着任した場合は、当時は1号館しかなく、そこに教室も研究室も事務局もすべて押し込まれた、およそ大学のイメージとは程遠

いところでした。当初はここにいつまでいられるだろうかという気持ちが正直ありました。それから31年間、今日まで私が勤め切れたのは、そうした貧弱な施設の中でも、全国のさまざまなところからさまざまな事情をかかえながらも、ここで学ぼうと集まってきた本学の学生諸君の真摯で善良な人柄とそうした学生たちのことを親身になって気遣いながら教育しようとする教員たちとが醸し出す輪のなかに、次第に深く取り込まれてきたからだと思います。じつと真剣に聴き入ってくれて、私語などに悩まされることなく気持ちよく講義をさせてくれた学生たち、卒論にはこちらの指導に応じて全力をもって底力を示してくれた学生たちと接して、われわれ教員も彼らのためにできるだけのことをしていけば、それだけ良くなっていく大学、いわばわれわれの「手作りの大学」だという気持ちを持たせてくれた職場でした。31年間こうした気持ちで勤めさせてもらったことが、なによりもありがたいことだったと感謝してます。

この4月から本学は法人化されますが、これまで本学の一番大きな資産として培われてきた学生と教員との気持ちの協和によるこうした「手作りの良さ」が失われていくことがないよう見守っていきたいと思います。

活躍する同窓生

同窓生との ネットワークを 大切に

ジャーナリスト
山本 美香
(ジャパンプレス所属)



入学したての頃、同級生たちが、「都留はずいぶん田舎だなあ」とぼやいていました。20年以上前のことです。厳しい大学受験を終えて、これからは思いっきり遊ぶぞと期待に胸を膨らませていたのでしょう。ところが、富士急行線に乗って大学にたどり着くころには、その夢は脆くも崩れ落ちていたのです。映画館は見当たらず、ファーストフード店やコンビニができ始めたのもこの時期ですから、がっかりするのも無理はありません。ところが、1年、2年と経つうちに第二の故郷となるから不思議です。空気は澄み、水はとびきり美味しく、緑あふれる都留の魅力に気づくのです。久しぶりに再会した友人たちは口をそろえて言います。「何にもなかったけど、楽しかったよね」都会的な刺激はなかったけれど、忘れられない思い出がたくさんあるのです。

思い出と言えばこんなことがありました。冷え込みの厳しい真冬の朝のことです。「今朝、サブイボできちゃったよ」始業時間ぎりぎり教室に駆け込んできた友人の発した奇妙な言葉。「え？サブイボ？」それは、寒い時に出る鳥肌のことだと京都出身の友人が教えてくれました。「それじゃあ“メイボ”って言いへんか」「メイボ？？？目のイボ・・・ものもらいのこと？」これも初めての響き。話しているうちに面白い言葉がどんどん出てきます。箸が転んでも可笑しい年ごろです。学食で同級生をつかまえては聞き出し、珍しい言い回しだと互いにお腹を抱えて笑っていました。

北海道から沖縄まで全国各地から学生が集まっている文大は、生きた方言の宝庫だったのです。私にとっては一種のカルチャーショックでしたが、方言をきっかけに出身地の特産品や珍しい風習にまで話は広がり、誰もが夢中になって故郷自慢に花を咲かせました。そして自慢話が終わるとほんの少ししんみりとするのです。入学と同時に初めての一人暮らし

をしていた友人たちは、家族を思い出していたのでしょう。彼らは故郷から段ボールいっぱいの食料品や日用品が届く度に照れ笑いを見せていました。

2007年には、英文学科・英文学会共催春季講演会にお招きいただきました。「日本の視点が世界を変える～国際ニュースの現場から～」と真面目な演題にしましたが、遠い国で起きている出来事を本校の学生にも身近な問題として考えてもらいたかったのです。

卒業後、テレビ局の報道記者を経てジャーナリストになった私は、この10数年間をアフガニスタンやイラク、コソボ、チェチェンなどの紛争地取材に費やしてきました。戦火の中東や辺境地帯を巡る中で気付きました。国や民族や宗教の垣根を越え、価値観の違いを認めあうことが、紛争解決につながっていく。それには、教育による底上げが不可欠だと実感したのです。そのような経験談を話したところ、学生の皆さんからは、「もっと知りたい」「コミュニケーション能力を鍛えるにはどうしたらいいのか」など質問が相次ぎ、国際情勢への関心の高さと真剣なまなざしに感激しました。こうした世代を越えた先輩、後輩との触れ合いは、私自身の大きな糧となっています。

少し前になりますが、深夜のテレビから「都留文科大学！」と紹介する声が聞こえてきました。陸上競技の全国大会で好成績を挙げていたのです。トラックを走る勇ましい後輩たち。卒業後何年経っても同窓生の活躍する姿には心が躍ります。音楽の分野でも素晴らしい成績をあげていると聞きました。さらには長年続く地域交流センターとの共同企画は、大学の特色の一つになっています。地域に密着したキャンパスライフは今もなお健在だと知り、地元出身の卒業生としてうれしい限りです。都留文カルチャーが同窓会ネットワークとつながって全国に広がり役立つことを願っています。



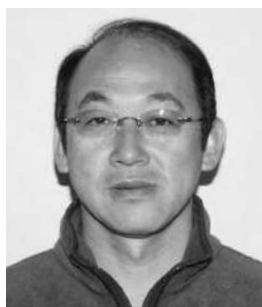
活躍する在校生

「陸上界に 都留旋風」

陸上競技部女子4×400mリレー
日本選手権3位 銅メダル獲得

陸上競技部監督
初等教育学科教授

麻 場 一 徳



平成20年10月24日～26日の3日間、新横浜の日産スタジアムで開催された第92回日本陸上競技選手権リレー競技大会の女子4×400mリレーにおいて、本学陸上競技部が3位入賞を果たし、銅メダルを獲得しました。

決勝のメンバーは、第1走者鈴木千夏(初教1年、三島北高出身)、第2走者小澤洋子(初教3年、静岡市立高出身)、第3走者長倉由佳(初教3年、静岡市立高出身)、第4走者上田千曉(初教3年、駿台甲府高出身)です。

この種目では昨年も同大会3位入賞を果たしており、2年連続の成績です。しかし、昨年は3位を争う複数チームの混戦から抜け出しておらず、言わばやっとつかんだ3位の座でしたが、今年の場合は、上位3チームの優勝争いの中で惜しくも優勝を逃した3位でした。しかも、上位2チームは北京五輪代表を擁する強豪チームです。

レース展開としては、第1走者鈴木が2番手でバトンパス。ちなみに1番手でバトンを渡した優勝チームの第1走者は北京五輪の代表選手です。第2走者の小澤も順位をキープして第3走者の長倉へ。長倉は、ここで優勝争いが3チームに絞られる中よく粘り、2番手をキープしたままアンカー上田へ。そして上田は、最後の最後で振り切られたものの、北京五輪代表2選手と堂々と渡り合っただけで、すばらしいレースでした。

今年のメンバーは、決勝ではメンバーに入らなかったものの予選で走った笹本絢(初教2年、静岡市立高出身)、予選と準決勝で走った飯尾絢(初教2年、浜松西高出身)も含めた6人のメンバー全員が3年生以下で、来年も残ります。さらには、AO入試によって新しい戦力の加入も決まっており、来年はさらに良い成績を残してくれるものと、今からとても楽しみです。

陸上競技のトラックシーズンは4月～10月で、今はシーズンオフですが、このオフ期の過ごし方が私たちにとってはとても重要です。シーズン中は毎週のように大会があり、多くの人たちにパフォーマンスを見ていただくことができ、とても華やかな側面があります。しかし、そのパフォーマンスは、4月までにしっかりと作り上げておく必要があるのです。つまり、11月～3月の5ヶ月間、人の知らないところでどれくらい地道なトレーニングを積めるかが勝負なのです。

現在、陸上競技部員は男女合わせて37名です。都留の冬独特の寒さの中、来る日も来る日も厳しいトレーニングに励んでいます。陸上競技は基本的に個人競技ですが、トレーニングの場面では団体競技と同じように、仲間と一緒に協力し、工夫し、また切磋琢磨しながら取り組んで行くことが重要なのです。そうでなければ、とても厳しいトレーニングを乗り越えていくことはできません。

また、対校戦と言って、個人種目の結果を総合して大学対抗得点として競う大会もあります。昨夏に開催された第57回関東甲信越(国公立)大学体育大会において本学陸上競技部は、女子対抗得点の部で総合優勝を飾ることができました。この優勝は、部員全員が一丸となって臨み、強豪筑波大学の23連覇を阻むという快挙でした。

このような成果があげられるのは、部員たちの頑張りももちろんありますが、周りのバックアップがあるからこそです。トレーニングの拠点である都留市営のやまびこ競技場の使用については、市の教育委員会や体育協会、陸上競技協会の方々にとってもお世話になっていますし、大学の事務局や先生方からはいつも暖かいご支援、ご指導をいただいています。さらに保護者の方々には、物心両面から部員たちを支えていただいております。

部員たちには、周りの方々への感謝の気持ちを決して忘れることなく、今後もパフォーマンスの向上に研鑽を積んでいって欲しいと思います。



関東学生対校陸上競技選手権大会の4×400mリレーで優勝(2連覇)し、表彰を受けている本学陸上競技部員(中央の4名)

実り大きい学びの場

北海道支部長 横山 勲

支部設立38年の歴史をもちます桂友会北海道支部総会は、平成20年8月9日(土)札幌市において行われました。日頃より全道各地で活躍をしている若い会員から退職された方まで30名ほどが集い、懐かしい顔ぶれの中で催すことができました。

はじめに、今年度より新学長今谷明氏が就任されたことや、来年度からの公立大学法人化に向けて、都留市長より説明があったことなどが理事会の報告としてなされました。

ところで、支部の活動を活性化させる上で年々大きな魅力となりつつあるミニ講演会が今年も行われました。今年度は、本学国文学科卒、現在札幌高等養護学校の平岡徹校長先生をお招きして『私の歩いてきた道』と題して講演をいただきました。

講演では、はじめに平成16年度からの法改正によるこれまでの特殊教育体制から特別支援教育支援体制への移行について話され、支援が必要な児童生徒や今後の支援教

育に触れて講演を閉じられました。

ふだん私たちが接することの少ない分野だけに視野を広げるよい機会となりました。今年で5回目を迎えたミニ講演会ですが、その内容においてはミニをこえた実りの大きい学びの場となっており、支部の恒例行事として定着をみえています。

その後、懇親会に移り、大学の現状を示すDVDを見ながらなごやかなよい時間を持って今年度の会を閉じました。

◎平成20年度支部役員

顧問	日下 功	会計	西道 直樹
"	熊谷 勲	会計監査	西多 弘
"	当銀 誠博	"	西山 肇
支部長	横山 勲	事務局長	山本 洋嗣
副支部長	加藤 佳栄	"次長	照山 秀一
"	井口 郁将	"次長	神野 昌代
"	杉森 繁樹	事務局員	大花 学
"	竹村 雅史	"	桜田 琢
"	"	"	金子 歩
本部理事	横山 勲	本部理事	当銀 誠博

「高田理孝」先生をお迎えし、 岩手県支部同窓会を開催

岩手県支部長 堀籠 智志

全国の同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私も岩手県支部では平成元年に支部を創設して以来、隔年で同窓会を開催しております。第10回岩手県支部同窓会は、平成19年11月23日(金)に、都留文科大学から高田理孝先生をお迎えし、北上市の「ホテルニューヴェール」において開催されました。今回は市町村合併もひと段落し、例年どおりの開催となりました。懇親会では、県内はもとより、遠くは、神奈川県に就職した人が3連休を利用して参加するなど、懐かしい顔ぶれが揃って、おおいに盛り上がりしました。

高田先生からは、「都留文科大学の現状について」というテーマで特別講演をいただきました。前半は、スライド等も使いながら、2004年11月に宿願の富士急行「都留文科大学前駅」ができるまでの、大学施設の充実ぶりについて、後半は、独立行政法人化への課題や、平成17年度から推薦

入学盛岡会場を開設したこと等、大変貴重で有意義なお話をたくさん聞くことができました。

最後に一本締めで2年後の再会を約束して散会となりました。今後とも岩手県支部をよろしく願いいたします。



◎平成19・20年度役員(卒業年度)

顧問	高橋 一臣(39卒)	穴戸 英明(40卒)
	司東 節子(38卒)	
会長	堀籠 智志(53卒)	
副会長	千葉 新也(56卒)	加藤 絹代(55卒)
事務局長	伊藤 昌俊(元卒)	
事務局員	小山田 厚(55卒)	相墨 純(2卒)
理事	吉田 文明(55卒)	三浦 潤(元卒)
	関 亜砂子(7卒)	山名 秀樹(55卒)
	吉田 淳子(55卒)	安藤 裕之(63卒)
監事	田鎖 伸子(元卒)	菊地 美喜(元卒)

「べにばな会」の発展を願って

山形県支部長 神尾 正俊

平成5年に山形県支部「べにばな会」が発足し、以来15年間支部長をおつとめいただいた武田茂行前会長の後を引き継ぎ、この度、山形県支部長をおおせつかりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

20年4月、同窓会理事会と学生の皆さんとの懇談会に参加するため、前会長の武田茂行先輩と大学訪問させていただく機会を得ました。私にとっては実に28年ぶりの都留の町と大学でした。山形県支部総会などで都留の町並みと大学の変貌ぶりはお聞きしていたものの、実際に訪問してみて本当に驚きでした。大学周辺はもとより、富士急行都留文科大学前駅周辺などは28年前の街の面影を探すのが困難なほどでした。すばらしい発展を遂げた都留の町と大学を嬉しく思いつつも、一抹の寂しさも感じた同窓会理事会でした。

交通の便も本当に良くなりました。東北新幹線もまだ開業していなかった私の在学当時は、特急に乗っても上野で乗り換え、更に新宿・大月で乗り換えて谷村の駅まで6時

間以上もかかったものでした。今は山形新幹線で東京に着くと、東京から中央線乗り入れの直通電車で4時間半。本当に近くなりました。これが約30年の時代の変化です。

山形支部「べにばな会」(県花:べにばな)は、2年に一度の開催となっております。平成21年は米沢市を中心とした置賜地区での開催となります。23年の開催は、ぜひ大学を訪問しながら、都留もしくは河口湖あたりで開催したいものと、今から会員に宣伝しながら、準備を進めているところです。秋の支部総会には多くの会員に参加していただき、都留大訪問をかねた同窓会の成功に向けて、実り多い総会にしたいと思っております。

◎平成20・21年度の役員

会長	神尾 正俊	鈴木 雄二		
副会長	小川 秀人			
監事	佐藤 英樹			
理事	和泉 一彦	白林 和夫	渡邊 隆	
	武田 茂行	佐藤 成美	佐藤 英樹	
	奥山 広幸	俵谷 育	原田 清一	
	若月 力			

繋がり発展し続けます

宮城県支部長 鎌田 清

先の岩手・宮城内陸地震に際し、同窓生の多くの方々より励ましと見舞いの電話を頂きました。温かな都留大卒業生の心に感謝です。有り難うございました。

今年も名誉会長鎌田光彦先生のお世話を頂き、教員採用試験支援学習会を行いました。現役学生の合格者も出て成果を上げています。

支部総会は54名の参加者で年々参加者が増えています。毎年2月第二土曜、仙台「ホテル白萩」で開催です。

支部の会報も発行していますが、11号を数えました。8月発行で2月の総会との間を会員の声で繋いでいます。

私事になりますが、先日自主公開研究会をしました。同窓生の参加が多く、さながらミニ同窓会にもなりました。校長会の全国大会が四国高松にありましたが、空手部の先輩方とお会いして一杯やりました。夏には広島・名古屋・山梨の同級生が来てあっという間の三日を過ごしました。「都留」、この響きが、文字が、三ツ峠を登らせ富士山に向かわせようと、いつまで経っても都留大生を繋ぎます。

◎平成20年度役員

名誉会長 鎌田 光彦
小野 俊

会 長 鎌田 清

副 会 長 千葉 龍正

齋藤 章生

相沢 光信

森田 宏彦

菅野 俊雄(事務局担当)

事 務 局 布施 勝久

清水 進

安倍 順子

会 計 横山 英美

幹 事 〈仙 南〉佐々木 仁

〈仙 台〉浅野 俊夫

〈中 央〉松浦 和浩

〈古 川〉伊藤 稔

〈栗 原〉千葉 睦子

〈石 巻〉伊藤ひろみ

〈気仙沼〉菅原 義之



白幡 守雄 高橋 克己

繁田 由美 坂本 忠厚

一條 良介 及川 恵子

佐藤 圭二

小野寺直美

伊藤 早苗

蓮沼 秀行

齋藤 竜一

小笠原裕見子

後藤 咲織

内海 茂則

佐藤 純

茨城県支部の近況

茨城県支部長 宮内 健治

全国の同窓会の皆様には、益々御健勝のことと推察いたします。

茨城県支部は、現在300余名の会員を有し、総会をほぼ隔年ごとに開催しています。平成19年6月に土浦市において支部総会が行われ、その後平成20年6月に潮来市で大川英世校長(麻生高)を囲んで支部の役員会を開催しました。

前支部長の大川英世(昭45・英文)先生は平成20年3月で御勇退されました。先生は英語科教員として進学指導、英語検定等の指導に当たり、さらに県教育研修センター指導主事として活躍されました。その後校長として学校経営に優れた手腕を発揮されました。また、先生には茨城支部長として長年にわたり、会の発展にご尽力いただきました。

支部役員会では、我々後輩に長年にわたる教育経験からの興味深い話をいただきました。先輩から同窓会の活性化のための支部運営や組織の強化等の提案もいただきました。

続いて、懇親会が開かれ、大学時代の学生生活等の思い出や近況を語り合う会となりました。役員である県教育研修センター指導主事井坂雄爾先生にも参加いただきました。都留大で学んだ者同士の心の交流が図られた楽しいひとときとなりました。

次回の茨城支部総会は、平成21年度に開催予定です。会員相互の情報交換の場となるよう御協力をお願いします。



活動を通して仲間づくりを!

千葉県支部長 林 俊之

「……模擬授業の体験が励みになり堂々と授業をすることができました。面接も落ち着いて明るく自分らしさを出しきることができました。これもみな素晴らしい先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。絶対に教員になり、一生を教育に捧げていきたいと思いました」

静岡県出身

「……過日の千葉県教員採用試験対策学習会におきましては、お忙しい中を我々のために時間を割いていただき誠にありがとうございました。学習会を通して同じ志を持った仲間や先輩と語り合うことができ、教師になりたいという気持ちを再確認することができました。」

千葉県出身

「……同じ志を持つ仲間と出逢えたことで、より一層意識が高まりました。また、千葉の自然に触れ美味しい物を食べ、先輩方と語り合えたことで、自分の中でイメージがはっきりしてきて、絶対に千葉県の教員になりたいという気持ちが一段と強くなりました」

岡山県出身

千葉県教員採用対策学習会に参加した学生のうち3名からの礼状の一部を紹介させていただきました。千葉県の平成21年度の採用内定者は、11名でした。そのうち9名は、県外出身者です。

同窓会千葉県支部では、教員採用のための支援や企業への就職支援活動に積極的に関わっております。上記のように県外出身者も増えてきておりますので就職後も継続した支援活動を心掛けています。

このことは、千葉県支部の会員拡大並びに活動充実、交流発展の糧となっております。今年度の採用対策学習会にも県内各地より、1年目、2年目教員が参加し、後輩にアドバイスを与えてくれました。

『人は出逢って知人となり 語り合って友人となり 活動を通して仲間となる』の言葉を支部活動の基底に据えて同窓会の更なる発展をめざしております。

東京支部の近況

東京都支部長 松本多加志

全国の同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度、東京都支部長を岩木晃範先輩より引き継ぐことになりました。1500余名の会員を抱えます本支部の発展に寄与されました歴代支部長に感謝いたすとともに、職責が果たせるかと身が引き締まる思いです。皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

平成20年8月25日に本年度の支部総会を開催しました。大学より、今谷明学長、鳥居明雄学生部長、植村憲治教授、本部から桐井幸雄副会長、また、輿石東参議院議員のご来席をいただき、旧交を温めるとともに、これからの日本の教育についての在り方を語る有意義な会となりました。

教員採用が拡大し始めている中、東京支部では4年前から、東京都を受験する学生に対して面接練習会を行っています。面接を通して、改めて都留大の学生の真面目さを再認識しています。今年もほとんどが合格しています。今後とも、本支部の特色の一つとして充実・発展させたいと考えております。

◎東京都支部役員

支部長	松本多加志 (S44初)	
副支部長	黒田 賀代 (S32初)	
	長沢 和子 (S43国)	
	橋本 秀夫 (S44初)	
庶務	奈良 覚 (S45初)	榛原 紀子 (S58初)
	田村 聡 (S62初)	西村 学徳 (H12初)
会計	矢野 優 (S47初)	高野 明彦 (S49英)
会計監査	松田 篤郎 (S42初)	泉 宣宏 (S47国)



飛翔・飛躍を目指して

神奈川県支部事務局長 松下登志男

非常に多くの同窓生がいる神奈川県では、全県を網羅した活動することは容易ではなく、地区ごとの活動が中心になることを余儀なくされています。今回は、津久井郡4町と合併し、大きくなった相模原地区の活動を報告いたします。

平成19年11月20日に、相模原地区の会「飛翔の会」が開催されました。難関を突破して採用されたばかりの若い方から、現役を退任された大先輩まで80名以上の「谷村の仲間・都留の仲間」が集まり、なつかしい思い出話に花が咲きました。

今回は、これまで8年間にわたって相模原市教育委員会教育長の重責を担われ、教育界をリードしてこられた雨宮博之先生(昭和34年度卒)が退任されたことへの感謝の集いの趣旨がありました。雨宮先生からは、完全学校5日制の実施から始まり、ゆとり教育、教育基本法の改正、全国一斉学力テスト、学習指導要領の改訂など教育改革の大きな波が連続した時期を振り返ってのお話を

いただきました。

また、今回は若い先生方がたくさん出席してくれたことが大きな特徴でした。星が丘小学校からは、校長・教頭はじめ8名もの同窓生が参加され、おそらく都留の同窓生が1校に在籍する数では日本一ではないかと話題になりました。

相模原市は平成22年4月に政令指定都市になることを目指して取り組みが進められています。横浜市や川崎市と肩を並べて、教員採用についても県から独立することになるので、今後一層の教育界の充実・活性化が求められます。そのために、同窓生一人ひとりが教育活動に全力で取り組み、魅力ある相模原教育の創造によって、教員志望の同窓生に大勢相模原を受験してもらえるように努力していくことを確認しました。

在学生のために受験対策指導をおこなってきましたが、今後は若い同窓生の受験体験談や学校での勤務の様子の報告なども取り入れて、内容の充実に取り組んでいきます。また、大学との距離が近いことを生かして、インターンシップやスクールボランティアの紹介などにもお役に立ちたいと考えています。

活動の継続が絆を強める

静岡県支部長 鶴見親義

静岡県支部の同窓会として活動は、ここ数年来次の二つの事業を中心になされてきている。

一つは、前支部長松島温通氏の実施によるところの「教員採用試験対策研修会」である。本年度は次のように実施した。

1. 名称 学生と語る会
2. 日時 平成20年5月24日 10時～15時
3. 会場 三島商工会議所(三島市一番町)
4. 内容
 - 講話Ⅰ(講師 現金指小校長 西岡祥一氏)
 - ・本県本市教育の目指すもの
 - ・教師としての心得、児童・生徒への接し方
 - 講話Ⅱ(講師 現長泉北小教頭 星屋 康氏)
 - ・今日的課題(筆記試験とのかかわりで)
 - ・面接心得、特別支援教育等に関して

体験報告

本年4月本県教員として採用された3名から「教員

採用と今」と題して発表された。

この活動が、学生諸君の志望する教員採用に少しでも資することが出来れば幸いである。

二つめは、第14回静岡県支部総会である。本年度の開催担当が、県東部地区ということで、中伊豆町の山手ホテルにおいて、8月23日開催された。内容としては、この1年間の活動経過報告(大学での懇話会や特別講座への参加報告)、学生と語る会の持ち方の検討、支部規約等について話し合った後懇親会に入り、大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができた。

本年度も活動の継続を図ることにより、同窓生相互の繋がりと、絆とが強められたと考えている。



錦秋の加賀路散策

石川県支部長 西田 良治

秋の一日、石川県支部では研修会を開催、大学OBでもある山根公氏(白山市在住、江戸時代の女流俳人加賀の千代女の研究家)を講師に、芭蕉の「奥の細道」の足跡をたどり、親睦を深めた。

まずは、白山市にある千代女の里俳句館を訪ね、小舞子海岸の石碑を見た後小松へ向かう。「しをらしき名や小松吹く萩薄」と詠まれた小松では、お諏訪さんで親しまれている兎橋神社から歩いて旧跡を見学する。木曾義仲に討たれた斉藤別当実盛の甲で有名な多太神社では、あいにく甲は非公開だったが、「むざんやな甲の下のきりぎりす」の句碑と解説を読み往時を偲ぶ。昼食懇談の後、午後は紅葉の名所那谷寺を訪問、境内は予想した通り観光客で混雑していたが、小雨降る中での紅葉は、何とも言われぬ美しさであった。最後は芭蕉が予定を変更して逗留したという山中温泉へ。江戸の頃山中は、草津、有馬と並ぶ三名湯のひとつであったという。残念ながら「山中や菊はたをらぬ湯の匂ひ」の名湯につかることは出来なかったが、大聖寺川に沿

った名勝鶴仙溪を、芭蕉翁と同じように歩いて回り、絶景の紅葉を満喫した。

すっかり日も暮れた帰りの車中では、全員で「花のかげ」を合唱し、遠く都留を思うとともに、旧交を温め研修会の幕を閉じた。

支部役員 会 長 西田 良治(昭50国)
副 会 長 下出 貴(昭51初)
" 谷内 誠一(昭50英)
事務局長 徳野 正一(昭46初)
会 計 光岡 和道(昭46国)



花のかげ集える友は

福井県支部長 伊藤 俊英

本年度の総会は11月29日(土)に開催しました。今年の参加者は23名で、昨年に比べると倍増しました。残念ながら参加いただけなかった皆様からは、今年も返信の葉書で近況をお知らせいただきました。厚く御礼申し上げます。都留で過ごした青春時代を思い起こしていただくことで、「結び合う心」をあらためてちかい、「いのちの讃歌みちあふれる」、ぬくもりのある会となるよう、今後とも皆様のご協力をお願い致します。

総会では上林基夫先生(昭43初)にご講演をお願いしました。大学での思い出や新卒教員の頃のこと、また、嶺南教育事務所時代や小学校長時代のことなど、豊富なご経験とご経歴からの貴重なお話をいただきました。家庭教育のあり方、家族のきずなや人の生き方などについても特に重点的にお話くださり、大変よい勉強をさせていただきました。先生の飾らない、明るくまっすぐな、大らかなお人柄に総会出席者一同、大変感銘を受けました。昨年の河合先生に引きつづき、会員の中からの講演依頼でしたが、両先生

とも気持ちよくお引き受けいただき、誠に有り難うございました。

総会後の懇親会も大変盛り上がりしました。世代の差があっても、都留の町並みや大学周辺の話をするとなんかの(あるいはかなりの)ずれはありましたが、まぎれもなく都留が第二の故郷であることをお互い確認できました。

当支部としては、今後も会員の親睦と大学当局や学生諸君への支援を続けるとともに、会員の拡大、特に若い世代の会員、また教員以外の皆様にもご参加いただけるよう工夫してまいりたいと思います。そのためには福井市およびその周辺地域だけで総会を開催することなく、全県的な広がりの中で、一人でも多くの皆様に、気軽にご参加いただけるよう工夫してまいりたいと思います。「花のかげ集える友」の友情ときずなを、大切にしてまいりましょう。



県支部の活動と名古屋地域の活動

愛知県支部長 鈴木 定夫

1 県支部の活動

本県では、県内を8地域に分けて、年1回地域幹事会を開いている。ここでは、県総会に向けての話と、情報交換をしながら連携を深めている。

今回から、参与(校長または校長OB等)も参加し、これまで以上に結束を強めることができた。

〈平成21年度の支部組織〉

支部長 鈴木 定夫(名古屋 47初)
事務局長 神谷 彰彦(名古屋 55初)
地域幹事 名古屋 平手 孝幸(55初)
尾 張 石高 秀美(51英)
海 部 平野 豊(56初)
知 多 山本 肇(56国)
西三河 平岩 篤(48国)
(豊 田) 岡田 正弘(51国)
東三河 仲田 泰夫(48国)
(新 城) 林 亨(51教)

第4回県地域幹事会 (8地域持回りで行っている会)

名古屋地域、若手懇話会
(役員と教員1～3年目を
中心に親睦を図る会)



2 名古屋地域の活動

平成20年度の活動
(予定も含め)は、以下の通りであった。

4月・・・異動確認、役員確定(11名)
5月・・・第1回役員会、区代表確認(市内16区と高校、OB)、名簿作成
7月・・・若手懇話会、第2回役員会、会報発行
10月・・・懇親会
12月・・・第3回役員会、会報発行
1月・・・総会並びに退職者慰労会
3月・・・第4回役員会、会報発行



やさしさとぬくもりを

兵庫県支部長 井上 弘 和

古代米が実っている広々とした田んぼの空を、トンビがゆったりと飛んでいる。「古代へのいざない」というオリジナル曲で、オカリナから流れ出るやわらかな音色がこのような情景を想い描かせてくれた。

平成20年5月31日(土)、第18回兵庫県支部総会を開催したときのことである。県下7地区、今回の世話役は神戸市で、楠木正成公ゆかりの湊川神社の敷地内にある楠木会館に、クスノキが生い茂る鮮やかな緑の中をくぐりながら、30人近くが集った。

恒例の総会の後に、教育現場の厳しい現実の中で、日頃の激務や困惑から少しでもリフレッシュしてもらいたいと願い、オカリナ講演会を実施した。

講師はオカリナ奏者の園山洋史さん、ピアノ伴奏は三好由美子さんで、前述の「古代へのいざない」から始まって、日本の懐かしいメロディーをモンゴル伴奏に乗せたり、時代や国を超えたオリジナル曲など、お二人の奏でる音色は参加者全員を魅了し、やさしさと癒しの世界

へといざなってくれた。

オカリナの音色のやさしさは、土でできているからか、そして、「集う」ということは、人間にとって一番大切なことだということを園山さんから教えていただいた。参加者が少ないと嘆くのではなく、その参加者の輪を少しでも広げていければと思う。

過日、教職を目指しているらしい後輩から、卒論のためのアンケートの依頼があった。会ったこともない後輩ではあるが、嫌なことがいっぱいの中だからこそ、子どもたちに夢と希望を語る教師になって欲しいと学生時代を懐かしく思い出した。(文責 小林)



役員改選と今後の方針・および雑感

広島県支部長 松田 昌 紀

標題に掲げたことについて、私なりの雑感も交えて、報告にかえたい。平成20年度の主な活動として役員会と総会をあげることができる。5月31日に役員会を開催、8月2日～3日にかけて『君田温泉・森の泉』で本年度総会をもった。新しい会長に小谷桂司氏(元・阿賀小学校長)を選出、併せてその他の役員の一部改選も行った。新会長の方針のもとに心機一転、躍動する活動を期待したい。

役員会と総会は、親睦を主目的とした活動をと、特に今年は考えた。費用は勿論各自の負担だが、先ずは目的を達成できたと思っている。私は敢えてそれでもいいと思っていた。たまに会った同期の者や同窓の者が、胸襟を開き日頃の思いを語り合う一時を作り出すのも本会の目的の一つと思っている。

私事で恐縮だが、県支部発足から副会長として10年、会長として4年携わってきた。当初は山崎勝美前顧問におんぶにだっこの会の運営だったが、氏亡き後の数年間は、大学本部との折衝や文書報告、それに、本部理事会にも数回

出席させてもらった。

大学も今ははっきりと過渡期を迎えている様子が理事会から窺えた。就職状況などについても、今後県支部同窓会としてどんな協力ができるかみんなで考えていけたらと思う。これからの課題はこの辺りにありそうと思われる。

振り返って今私が思い出すのは、同窓会の運営に当たっておられる事務局を初め関係者の皆さんの本当に温かいご配慮であった。

この欄を借りて心からお礼を申し上げます。

平成21年度の役員

顧問	金久 陸彦	理事	山城 義明
顧問	松田 昌紀	理事	猪原 憲三
会長	小谷 桂司	理事	本宮 建弘
副会長	中西 正一	理事	土橋 義信
副会長	表 善彦	理事	三永 政幸
理事	信川 和也	理事	田中 春樹
理事	佐島千賀子	監査	三井 昌宏
理事	田丸 正実	監査	白石 隆
理事	宮本 仁	事務局	二宮 正

第3回鳥取県支部総会・懇親会を開催して

鳥取県支部長 西 尾 迪 子

雲一つない晴天で、雄大にそびえ立つ大山を見ることができた平成20年11月22日(土)に3回目の支部総会を倉吉で開きました。21名がホテルセントパレス倉吉に集いました。

初めに4月に大学で開かれた理事会について報告をしました。在学生との懇話会で2人の参加者があり、鳥取県の教員採用状況と現場で望まれる教師になるために必要な心構え等について1時間余り意見交換をしたことを話しました。特に『大学の学部及び大学院の充実と発展についての支援について』の内容を大学の動向ということで参加者のみなさんに読んでいただきました。今後も、大学が充実・発展しながら存続するためには、いろいろと難しい課題が多くあることをみなさんが理解されたようでした。そして、『21年度の大学入試案内』の冊子が手元に届いたので回覧しましたところ、学園都市のようにりっぱになった大学の建物の変わりように話が弾みました。また、大学前駅ができていくことにも驚きの声がありました。

次に懇親会です。都留市で過ごした青春時代の思い出と現在の生活ぶりについて話しながら自己紹介をしました。講義について、アルバイト先、下宿やよく飲食した場所と名前、学生食堂のこと、クラブ活動のこと等楽しかったこと、いやだったこと、おもしろかったことが次から次へと話されました。話に聞き入り領いたり笑いがあったり。大学時代に都留市で恋が芽生え縁あってご夫婦になられた3組が参加され、うれしい限りでした。みなさんの話を聞いていると年代がだいたい3つに分かれるように思いました。(昭和40年頃から昭和の終わりまで、平成10年頃まで、これ以降から現在まで)

楽しかった3時間があっという間に過ぎ、来年の開催日と場所を決めて散会しました。

今後支部総会が回を重ねる毎に参加者が増え、盛会になることを願っています。



支部結成から6年目の岡山

岡山県支部長 原田 直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので6年目を迎えました。

結成以来、8月第3日曜日に支部総会を開催してきましたが、平成17年度(第3回)支部総会から2月11日(建国記念の日)に岡山市内で開催することになり、平成20年度もその予定で、ただいま準備を進めているところであります。

さて、平成20年度の本部同窓会理事会及び懇話会には岩城孝志事務局長が支部長代理で出席してくれまして、支部としての責任は果たせました。

平成20年度の支部総会の様子を写真でお知らせしたいのですが、原稿締め切り後に開催するので、昨年度の総会の様子を文章にしてみます。

会場は、岡山市内の割烹「山佐本陣」といいます。昨年度とほぼ同じメンバーが集いました。もう少し会員の参加を増やしたいと思っています。それでも、5回目ともなると、気心知れた先輩、後輩という感じで、和気藹々の楽しい支部総会でした。

老若男女が一献傾けているうちに赤ら顔の童顔になり、完全に文大生になりきって教育談義に花を咲かせておりました。談論風発、急変する社会情勢や教育環境にいかに対応すべきか、機関銃のごとき各論の応酬、杯を勧め、桃李に宴するの序のごとき空間が岡山の一隅に、出現しました。

毎年、この様子を支部旗を背景に写真に収めて皆様にお届けしたいと思うのですが、支部旗を管理している方が最近、旗の持ち込みを失念しています。そこで支部長が今年から支部旗を管理することにしました。2月11日の第6回支部総会の写真はぜひ来年度の会報では紹介できると思います。

岡山県支部役員

支部長	原田 直樹		
副支部長	菱川 徹		
理事	岩城 孝志	坂上 信二	
	中野 元雄	土師 康生	
事務局	岩城 孝志	岩崎 美幸	岡本 智江

野鳥に心癒されて

高知県支部長 清岡 典代

高知県支部が発足して、早6年が経ちました。支部結成以来、年に1～2回開催される総会・懇親会は、毎回和やかな雰囲気で行われています。

平成20年度の総会・懇親会は、平成20年8月2日(土)に高知市から少し山の中に入った土佐山で8名の出席の中、行われました。総会では、会長挨拶、出席者の近況報告、19年度事業報告、決算報告、監査報告がなされ承認されました。また、20年度の事業計画、予算案、役員の選出が行われました。

続いての懇親会では、これまで東京を拠点に活躍されていた野鳥写真家和田剛一さん(昭46国文卒)ご夫妻をお迎えし、新たなメンバーとのつながりを深めることができました。郷里の土佐山にオープンされて間もない写真専門ギャラリーで、和田さんの心温まる野鳥の写真の数々に一同感動ひとしきりでした。自然に囲まれたギャラリーで、出版された写真集の撮影のお話を伺いながらのひとときは、あっという間に過ぎてしまいましたが、心癒されたことで

した。

高知県支部の総会の出席者の顔ぶれも、同じメンバーになりつつあったところ、今回、和田ご夫妻をお迎えでき、本当に嬉しく思ったことでした。また懇親会では、年齢に関係なくあの懐かしい都留の大学時代に思いをはせ、昔話に花を咲かせました。大学を卒業して何年経とうとも、あの大学の4年間は人生のかけがえのない時間だったことを感じます。

今後、高知県支部同窓会のさらなる発展を目指しています。都留という共通項の中、世代を越えたつながりを実感できる総会に、数多くの方が出席して下さることを願っています。(文責 岸本数恵 59年国文卒)



在学生、熊本県人会開催

熊本県支部長 倉岡 康夫

毎年4月後半、大学の同窓会理事会が実施され、理事会後、在学生との懇談会(熊本県の教員採用状況等)という貴重な時間が計画されています。

昨年、その懇談会の折、熊本県出身の学生が同学年でも、学年が違えば、ほとんど交流がないということを知りました。横のつながりも、縦のつながりもないのは驚きでした。これでは、支部の同窓会をしても参加が少ないのは、理解できます。

そこで、今年4月、私のほうから、在学生に連絡を取り、理事会終了後、17時から第一回の「熊本県人会」を「福一」において実施することができました。(在学生9人中6人の参加がありました)

ほとんどが初対面のように、このような会が開催されたことをとても喜んでくれました。楽しい時間(3時間)もあったという間に過ぎました。

その後、学生から次のようなメールが届きました。

4年生A君より、「先日はありがとうございました。先生

のおかげで都留文科大学の熊本県人と会うことができ、仲良くなることができました。これからもこのつながりは大事にしていきたいと思っています。あれからみんなでボーリングに行きました。熊本弁を交えて楽しく遊ぶことができました。これから勉強に本腰を入れ、熊本の教員採用試験に合格するようがんばりたいと思います。」

2年生Bさんより、「こんばんは。今日は支部長さんが集めて仲良くなれたことがキッカケになって、富士急ハイランドに遊びに行きました。あのときに集めて頂かなかったら、こんな風に遊ぶことはなかったでしょう。ありがとうございました。これからも仲良くがんばっていくことをここに報告します。」

次年度からも、「熊本県人会」を開いて、定着させ、発展させていきたいと思っています。



住所変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名を変更された方は、次の必須項目及び変更内容をいずれかの方法によりお知らせ下さい。郵便はがきでの住所変更届の場合、ハガキは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

- (1) 本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所変更届け]にて行ってください。
なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照下さい。
都留文科大学ホームページURL
<http://www.tsuru.ac.jp>
- (2) ホームページ上にて氏名・住所変更届けを行う際には次のユーザーID並びにパスワードが必要となります。
ユーザーID: tsurubun-u パスワード: t10016 (どち

とも半角英数)※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザーID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail/dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛
TEL/0554-43-4341 内線206 FAX/0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先役職

平成19年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位:円)

項 目	当初予算額	予算流用	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	3,870,000	0	3,870,000	3,870,000	774人×5,000円=3,870,000円
終 身 会 費	7,740,000	0	7,740,000	7,740,000	774人×10,000円=7,740,000円
繰 越 金	1,212,287	0	1,212,287	1,212,287	平成18年度繰越金
雑 入	23,713	0	23,713	44,618	50周年記念誌販売(2冊)・預金利子・特別寄付金会計繰入
収 入 合 計	12,846,000	0	12,846,000	12,866,905	

◆支出の部

項 目	当初予算額	予算流用	予算現額	支出済額	備 考
事 業 費	7,145,000	0	7,145,000	6,235,754	
会 報 発 行 費	2,700,000	0	2,700,000	2,500,546	同窓会報第26号(平成19年度発行)
支 部 助 成 金	3,230,000	0	3,230,000	3,230,000	山梨 東京 神奈川 愛知 静岡 600,000円(@120,000円×5支部) 北海道 兵庫 千葉 福島 440,000円(@110,000円×4支部) 岩手 宮城 埼玉 新潟 900,000円(@100,000円×9支部) 富山 石川 福井 大阪 広島 山形 茨城 島根 岡山 愛媛 900,000円(@90,000円×10支部) 徳島 熊本 鹿児島 長崎 三重 320,000円(@80,000円×4支部) 鳥取 宮崎 沖縄 奈良 70,000円(@70,000円×1支部) 高知
支部設立準備金	450,000	0	450,000	0	
新 入 学 祝 費	500,000	0	500,000	425,208	
支 部 旗 作 成 費	165,000	0	165,000	0	
教 員 採 用 試 験 費	100,000	0	100,000	80,000	宮城 鳥取 千葉 静岡 石川 愛知 東京 富山 80,000円(@10,000円×8支部)
会 議 費	1,800,000	0	1,800,000	1,632,670	
総 会 費	500,000	△79,000	421,000	253,670	
理 事 会 費 等	1,300,000	79,000	1,379,000	1,379,000	総会費から流用
同 窓 会 本 部 費	1,720,000	0	1,720,000	1,603,929	
事 務 費	100,000	△11,652	88,348	22,277	
運 営 費	1,500,000	11,652	1,511,652	1,511,652	事務費から流用
慶 弔 費	120,000	0	120,000	70,000	
渉 外 費	0	0	0	0	
積 立 金	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	大学創立記念事業基金積立
予 備 費	181,000	0	181,000	90,000	平成19年度役員報酬
計	12,846,000	0	12,846,000	11,562,353	

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高)

12,866,905 - 11,562,353 = 1,304,552

◎基金の増減

◆平成18年度末積立現在高	23,599,085円
◆平成19年度中積立金(大学創立記念事業)	2,000,000円
計	25,599,085円

基金内訳

財政調整基金	7,202,425円
大学創立記念事業基金	17,296,660円
名簿発行準備金	1,100,000円
計	25,599,085円

体育会

平成21年度体育会
会長 金山大地

孟春の候、都留文科大学体育会会員の諸先輩方におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。およそ半世紀近い歴史を持つ体育会ではありますが、現在「伝統」や「文化」など諸先輩方が作り上げてきた歴史を今まで築き上げてきた土台とし、その上に自分達は「絆」というスローガンを掲げ体育会のつながりを強め、体育会をより良いものにしていこうと日々頑張っています。

今年は、女子陸上部をはじめ、様々な部活が優秀な成績を収めています。これは現役選手の力だけではなく、陰で支えて下さっているOB、OGの先輩方のおかげです。

これからも、諸先輩方に都留文科大学体育会各部の良い報告が出来るように精進していききたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



「関東甲信越大学体育大会」にて

文化会

平成21年度文化会
会長 千葉 歩

春陽の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成20年度、本学合唱団の第63回全日本合唱コンクール関東支部大会金賞を授賞、一位通過で第61回全日本合唱コンクール全国大会に出場(合唱団の全国大会への出場はおおよそ10年ぶり)など、輝かしい実績を収めて参りました。これもひとえに陰で支えてくださいました諸先輩方のお力添えの賜と、お礼申し上げます。

さて、文化会本部は、平成21年度に向け引継ぎが完了しました。文化会所属の各団体においてもそれぞれ新体制を整え、新たな気持ちでこれまで先輩方が築いてきた伝統を引き継ぐべく決意を新たにしているところです。文化会といたしましてもさらなる発展を目指し、各団体の交流や絆を深める支援を行っていきたいと考えております。

つきましては、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方に今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



平成19年度卒業式学生歌奏楽の様

新刊紹介

楠元六男著『我を絵に看る―芭蕉の甲斐行―』

昭和49年 国文学科卒業 (新典社新書)

天和三年(1683)夏、江戸大火にあった芭蕉はしばらく谷村に避難します。その折のことを詳細に解説したのが、本書の内容です。

従来の研究は芭蕉来訪のことをトピックのごとく報じてまいりましたが、より正確な事実とその歴史的意義を中心に縷説してあります。芭蕉は谷村を訪問することにより、旅人になっていったのだということを作品鑑賞から帰納しました。

往時の谷村の状況とか、芭蕉の精神状況とかも掘り下げて論じてありますので、谷村の古地図などをなぞりながら、いま一度、イメージの中で都留市を散策してみてもどうでしょうか。

芭蕉の愛した谷村を再確認しつつ、私どもにとっての第二の故郷を顕彰する意味で執筆してあります。



鹿児島県支部の近況

鹿児島県支部長 溝口 通 大

本県は、南北600kmで多くの離島を抱え、会員が散らばっていて、なかなか集まりにくい現状である。近年、本県教員及び九州各県に合格する学生が減少している。支部としても側面から支援したいと考え、大学サポート室の指導をいただきながら、遠地の特性を生かした支援に努めている。

平成19年度3名が合格し、本県教育に取り組んでいる。以下3名の様子、近況を紹介する。

★教師生活2年目を迎えて 田代賢一郎(阿久根小)

「おはようございます。」と子どもたちの最高の笑顔が私に一日の活力を与えてくれます。授業で見せる真剣な顔、けんかをして泣いている顔、子どもたちは毎日私に違う顔を見せ、日々成長しています。未来の日本を担う大人を育てるこの仕事に誇りと責任を感じながら毎日を過ごしています。悩むことや大変なこともあります。子どもたちと笑いながら教壇に立てる喜びをかみ締めています。

★2年目の近況 森 聖子(明和小学校)

私の勤める鹿児島市立明和小学校で五年生の担任をさ

せていただいています。とても人懐っこく優しい子どもたちに囲まれています。先日まで音楽発表会に向けてジャズ「イン・ザ・ムード」という曲を演奏し、学級の結束も深まりつつある所です。

学級経営していく上で「どんなことでも子どもと一緒にしよう。」という目標を立てています。

教師自身も子どもと一緒に遊んだり、活動したりすることで、子どもたちの人間関係や性格を感じ取ることができます。何よりも子どもたちに色々なことを教えてもらいながら毎日充実した日々を過ごしています。

★2年目の近況 坂口(旧姓下村)絵里(西稜小)

今年度一年生の担任として子どもたちと元気いっぱい楽しい日々を過ごしている。

学習面では、基本的な学習のしつけや学習の楽しさを伝えられる授業を目指している。学級経営では子どもたちとできるだけ活動を共にしている。一年担任ということもあり、保護者向けに毎日日報を書いている。研修を通して自分自身を成長させ、それが子どもたちの成長につながった時とてもやりがいを感じた。これからも微力ながら鹿児島教育を盛り立てていければと感じている。

同窓会支部設立10周年記念事業の報告

沖縄県支部長 金城 宏 安

早いもので平成9年8月に同窓会沖縄県支部が設立されて10年以上が経過し、その設立10周年記念事業の一環として都留文科大学大学院教授の河村茂雄講演会を平成20年2月11日(月)祝日に沖縄産業支援センター1階大ホールで開催しました。

「データが語る一学校・家庭・地域の課題」と題して200人近くの聴衆の前で河村先生の熱弁は聞き応えのあるものでした。この10周年記念イベントは主催が同窓会沖縄県支部ですが共催に沖縄県中学校進路指導研究会がバックアップして頂いた関係で学校現場の先生方も多く、同窓会支部会員のご協力で成功裡に講演会を終えた事を報告させていただきます。

会場には学校現場の先生方だけでなく、一般企業のサラリーマンや中小企業のトップのかたがたも足を運んでいただき若手社員と上司の関係や目標設定、役割分担の持たせ方…等々、また現場教師には子供の学力・いじめ・生活習慣に対処する方法等、データを基に貴重なお話を頂き

ました。中でも私個人として嬉しかった事は今まで逢うチャンスがなかった都留大OBの何人かがこの講演会に参加して頂き、久しく近況を話し合う機会を持てたことが嬉しく想い印象的でした。

これからも、支部設立15周年・20周年と回を重ねるたびに同窓会支部会員の結束と大学当局・ならびに同窓会本部のご発展を祈りつつ報告とさせていただきます。

沖縄県支部役員

支部長 金城 宏安(昭34年 初)
副支部長 饒平名康夫(昭35年 商)
大城 侑子(昭36年 初)
渡慶次淳子(昭41年 初)
事務局長 伊波 聡(平06年 初)
会 計 徳本真理子(平12年 国)



平成20年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	762	13	東京都	1,712	25	滋賀県	104	37	香川県	142
2	青森県	232	14	神奈川県	1,534	26	京都府	257	38	愛媛県	267
3	岩手県	464	15	新潟県	578	27	大阪府	588	39	高知県	74
4	宮城県	614	16	富山県	517	28	兵庫県	878	40	福岡県	274
5	秋田県	211	17	石川県	555	29	奈良県	110	41	佐賀県	79
6	山形県	304	18	福井県	438	30	和歌山県	183	42	長崎県	217
7	福島県	726	19	山梨県	3,295	31	鳥取県	158	43	熊本県	208
8	茨城県	387	20	長野県	927	32	島根県	220	44	大分県	108
9	栃木県	408	21	岐阜県	486	33	岡山県	384	45	宮崎県	139
10	群馬県	303	22	静岡県	1,222	34	広島県	515	46	鹿児島県	387
11	埼玉県	645	23	愛知県	1,239	35	山口県	195	47	沖縄県	157
12	千葉県	660	24	三重県	364	36	徳島県	339	48	不明者	2,833

合 計 27,402

支部設立済都道府県

平成20年4月1日現在

第20回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 平成21年8月2日(日)午後2時

○場所 都留文科大学2号館 101教室

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

同窓会の事業である「同窓会と学生との懇話会」「模擬面接体験会」等、会員の皆様のご協力で充実したものになってきました。また、宮城県や東京都の支部独自活動から始まった教採対策指導・支援活動も各支部へと拡大しています。18年度、19年度、20年度と多くの支部で独自の教採対策指導をはじめたという知らせや指導の内容等が同窓会本部に入ってきています。さらに充実させていきたいものです。

さて、各位の厚いご協力のおかげで、同窓会総会も回を重ねて20回目となりました。会員数も平成20年4月1日現在27,402名となり、各界での会員の活躍も同窓会報にも見られるように素晴らしいものがあります。

第20回の同窓会総会は、全国から集まって

いただく会員の皆様に強い思い出が残せるように、富士五湖の花火大会が行われる間の8月2日(日)とさせていただきます。8月1日の山中湖の報湖祭を皮切りに、西湖・精進湖・本栖湖、そして河口湖と、花火大会が続きます。これは富士五湖の夏祭りで、夏の夜の湖上での花火の打ち上げが見られます。8月5日は、富士五湖最大の花火大会の河口湖湖上祭です。

夏の日の思い出に同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。同窓会総会の後、クラス会を開いている会員の方々が毎年おられます。できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も願っております。よろしくお願いいたします。

事務局だより

「教職志望者のための特別講座」を視聴して

同窓会事務局 飯野 美華

平成20年12月17日(水)、18日(木)の2日間に亘り、キャリアサポート室主催「教職志望者のための特別講座」が開催されました。同窓会各県支部の先生方を講師としてお招きし、教員採用の実情などについてお話していただきました。

教員採用も厳しさを増す中、教員を志願する在学生が多数参加し、講師の話に熱心に耳を傾けていました。講座では、教員を志す者としての心のあり方など、メンタルな部分でのアドバイスもありました。受講した学生の中には、教員としても先輩である講師の話に、何度もうなずき、紙一面にメモを取っていた人もいます。

1時間半の講座では、教員という同じ職業を目指し、目指した在学生と同窓生、真剣な中に時おり笑いもあり、温かい空気を感じることができ、受講を終えた学生からは、「解りやすく、参加して良かった」との感想をいただきました。

学生にとっては厳しい話もありましたが、これから自分の夢を叶えていくためには、何が必



要なのか、どうすべきかをこの講座で掴むことができた学生の表情は、どこか穏やかにも見受けられました。

今回のキャリアサポート室主催の講座に協力して活躍する同窓会員の姿は、本学の発展と学生への実りあるものとして、貢献されていることを改めて感じることができました。

